

《予想より大きかった円高への動き》

中国経済への懸念と原油価格の下落に揺れる世界の市場・・・。
なんか不安感いっぱいですね。

前回のメルマガで東京市場が世界市場下落の歯止め役（ディフェンシブ市場）になれるか、
どうか、という話をしました。
しかし、先週はあえなく崩壊。
その理由は為替にあります。

東京市場が、世界の他市場と比べて「マシ」なことは二つ。
一つは原油価格の下落が経済全体にはメリットとなること。
もう一つは、米国利上げが、円安へつながることで、これもプラス要因にできること、
でした。

しかし、中国経済の減速感が「半端ない」ことで、米国景気にも悪影響を及ぼすだろう、
とされ、その余波で、米国利上げが遠のく、という予測が市場で出てしまいました。
そうなる、と、為替は、逆に円高に動きます。
ドルは 122 円台へ動き、東京市場は、これを見て急落しました。

この反発はいつから？

日経新聞などでは、18500 円が反発のタイミング、みたいに書かれていますね。
下落のスピードが速いため、一旦反発するのは、比較的早い時期、18200 円～900 円のどこ
かだと思われます。
しかし、本格的に反発するには、何か材料が必要でしょう。

まずは 8 月 24 日からの 1 週間、が反発の第一段階。
その次は、9 月 10 日前後でしょう。
9 月 10 日は、郵政 3 社の上場承認が下りる、と言われている日です。
これによって、急落すれば、そこが一つのポイントかもしれません。